

オーストラリアの人事攻略で成功する為には

その43

アメリカのサブプライム危機から発し世界経済が後退する今日であります。

1987年にオーストラリアは金融危機を向かえ事実上Westpac銀行が倒産いたしました。

今日この銀行が存続しているのはAMPが株を買い支え、銀行の更生を行なったからであります。

シドニーの目抜き通りであるジョージストリートを歩きますと当時は3軒に1軒はトタン板が貼ってありました。失業率は15%を超え、20%に達する勢いでありました。

バブルの真っ盛りだった日本経済はオーストラリア中を不動産投資から始まり、観光、金融までを買い占める勢いでありました。当時のオーストラリア人から見て全ての日本人がお金持ちに見え、クイーンズランド州ではハイスクールで日本語が必修科目になってしまいました。

街には失業者があふれ、スーツを着た仕事を探している若い男性が「need a job」というプラカードを掲げ自動車道路の端に立っておりました。

景気の後退により今後失業率の増加とともに離職率の減少が予想されます。企業側にとっては候補者の数が増え買い手市場になることが期待されます。

しかし労働党政権であることを忘れてはなりません。つまり不況と共にユニオンの活動が活発化することが予想されます。

当時は12月クリスマスの時期が近付くと港は賃上げ要求目的のストライキで港湾作業員であふれ、荷動きの取れない状態でありました。

またオーストラリア経済が20年程前の経済状態に戻った場合、オーストラリア人の仕事に対する姿勢が大きく変わり解雇されないうために上司の指示を良く聞くように姿勢が変わることが予想されます。

しかしユニオンへの加入が増え、ユニオンの係員が頻繁に工場や倉庫に訪問するようになると思います。

ただし現在はシドニーやメルボルンの場合人口構成が以前とは変わりアジア人が増加されているため景気が後退すればホワイトカラーの職種からアジア人が締め出され、工場や倉庫に転職することが予想されます。そのような場合、ユニオンの活動が以前ほど活発になるとは思われません。

また特に新卒の就職率が激減する事が予想されます。

その為多くの新卒者が派遣社員で勤務する形態が目立ってくると思料されます。

よって企業は派遣社員で採用した者の中から優秀な人材を正社員として再雇用するでしょう。